

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握 03 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と活用 08 中高連携体制づくり
概要	高等学校に進学する特別支援学校中学部在籍生徒の情報交換に関する対応
事例提供校	高等学校： 中部地区 定時制・通信制 特別支援学校： 中央特別支援学校

事例の内容	高等学校からのリクエスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・合格者の一人が特別支援学校中学部在籍であると確認できたため、障害の状況、学習上の配慮事項、医療・福祉等の関係機関との連携の状況など、調査書では確認できない当該生徒に関する情報を得たいと考えました。そして、入学後の支援及び配慮事項等を事前に把握し、教員間で情報を共有したいと思います
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換のためのケース会議を設定したいと思います。 ・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等による生徒の情報を提供したいと思います。

センター的機能を活用した感想	高等学校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末、特別支援教育コーディネーターと新年度1年部学年主任が、特別支援学校を訪問し、該当生徒について情報交換会議を行いました。 ・「個別の指導計画」を確認しながら、中学部での学習の状況、指導上の配慮事項、支援方法等について、具体的な話を聞くことができました。 ・「個別の教育支援計画」を確認しながら、特別支援学校該当となった経緯、家庭の状況、医療機関や福祉事業所との関係等について、情報を得ることができました。 ・当該生徒とその保護者が、高等学校への期待と同時に、学習の内容や進度、相談窓口の利用などに不安を抱えていることが分かりました。 ・会議終了後、管理職に報告するとともに、教員間（担任・副担任、教科担当、養護教諭）と情報を共有し、必要な支援や指導上の配慮事項等について検討することができました。
	特別支援学校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部での指導経過、具体的な支援等を進学先に直接伝えることができ安心しました。 ・当該生徒とその保護者も、「個別の教育支援計画」の提供等を前向きにとらえ、高等学校入学後の継続的な支援に期待をしていました。 ・中学校で作成された「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」が、保護者の同意の下、進学先の特別支援学校高等部に引き継がれるのは通例になっています。

まとめ
<p>令和2年度教高第572号「特別支援教育に係る文書情報の共有について(通知)」を確認してください。当該生徒や保護者の意向、個人情報保護等のハードルはありますが、高等学校から中学校等に働きかけ、支援内容等を引き継ぎ、入学後の学校生活や学習が円滑にスタートできるようにしましょう。</p>

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。